エコアクション 21

環境経営レポート

2024 年度



エコアクション21
認証番号 0004876

対象期間　2024 年 8 月～2025 年 7 月

2025 年 9 月 30 日発行
2026 年 2 月 10 日改定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

有限会社平出製作所はエコアクション 21 の活動を通じて持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

目次

1. 会社概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 2024 年度環境経営計画
6. 取組結果の評価と次年度の取組内容・環境経営目標
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体評価と見直しの結果

1.　会社概要

1.1　事業所名及び代表者名

有限会社　平出製作所
代表取締役社長　平出　正彦

1.2　事業所の所在地

長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪 4356

1.3　事業内容

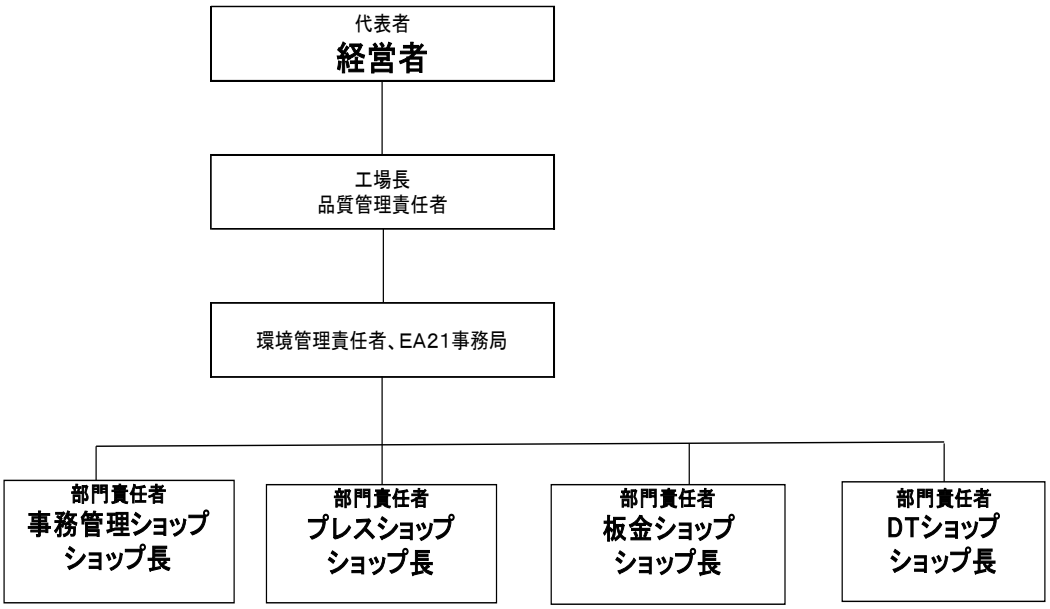
金属プレス加工、金型加工、精密板金加工などの金属加工品の設計・試作品及び、1 個から量産品まで対応

1.4　環境管理責任者及び、担当者連絡先

環境管理責任者　　平出　哲夫

連絡先　　電話　0265-79-2507
FAX　0265-79-0222
E-mail　info@hiraide-ss.jp

1.5　環境管理実施体制



役職	責任および権限
代表者	1. 環境管理責任者の任命及び環境方針の制定 2. 環境経営システムの評価と見直し・指示 3. 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 4. 実施体制を構築し、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する。 5. エコアクション21を運用し、維持するための経営資源を用意する。
工場長	1. 代表者の補佐、及び環境管理責任者、EA21事務局のバックアップ
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施 2. 代表者への環境経営システムの実施状況報告 3. 業務、役割に応じ、教育訓練を計画実施する 4. 環境活動の公表、外部からの必要な対応を行う 5. 環境活動状況の定期的見直しの実施
EA21事務局	1. 環境経営システムへの取り組み状況を把握し、目標及び活動計画を策定実施する
部門責任者	1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善する
従業員	1. 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施 2. EA21活動に関する改善提案

1.6　事業の規模　（2024 年度）

売上高	290 百万円
主要製品	プレス・精密板金による金属加工品
敷地面積	3,000 ㎡
延べ床面積	1,450 ㎡
従業員数	23 名（2025 年 7 月末現在）

1.7　主要設備

プレス機械	14 台（能力 3～150ｔ）
N/C プレス	１台
レーザ加工機	１台
ワイヤーカット	１台
フライス旋盤	１台
レーザ複合機	１台
自動バリ取り機	２台
自動洗浄機	１台
N/C ベンダー	３台
自動曲げロボット	１台
N/C タッピングセンター	２台



パンチ･レーザ複合機 LC2012C1



自動曲げロボット EG6013AR



自動バリ取り機　AuDeBu1000

2.　対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

2.1　対象範囲

全組織、全活動

2.2　レポートの対象期間及び発行日

表紙に記載

3.　環境経営方針

基本理念

　当社は、金属プレス加工・精密板金加工の事業活動を通じて、社員一同地球環境の保全を最重要課題の一つとして認識し、企業活動は全ての面で、地球環境の保全と調和に取り組み、以下に示す活動を継続していくことにより地球にやさしい企業を目指します。

行動指針

1.　当社では、金属プレス加工、板金加工等の全ての事業において、「不良の流出ゼロ」を目標に掲げ、資源の有効利用、省エネルギー、廃棄物の抑制を考え、環境保全活動の継続的改善を行います。

2.　当社では、水使用量の削減、廃棄物、排水量の削減、二酸化炭素排出量の削減、化学物質の不使用を優先的に活動します。

3.　当社では、環境保全に関する法律、条令、規制を遵守します。

4.　当社では、社員一同が環境保全活動に取り組み、グリーン製品を優先的に購入します。

5.　環境配慮製品の開発、設計改善点を発注者に対して積極的に提案します。

6.　当社では、環境保全活動を、工場周辺道路脇の草刈や、水路の堰浚いなどを行い周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。

7.　環境経営方針、環境経営レポートを公表し関係者の理解協力を求めていきます。

2019 年　4 月　5 日　制定

有限会社平出製作所
代表取締役社長　平出　正彦

4.　環境経営目標

No	環境方針項目		環境目標取組項目	※基準値 2021～2023年度 実績の平均	CO2 換算係数	年度目標 2024　年度	2025　年度	2026　年度
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	①電力管理の徹底 ②照明管理の徹底 ③空調管理の徹底	電力使用量 284,004 kWh／年	 0.496	基準値に対し 1.0 %削減 281,164 kWh／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 281,164 kWh／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 281,164 kWh／年以下
		化石燃料消費量の削減	①エコドライブの励行（燃費向上） ②冷暖房機器管理の徹底	油種別消費量 灯油〈L／年〉 4,572	 2.490	基準値に対し 1.0 %削減 4,527 L／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 4,527 L／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 4,527 L／年以下
				LPG〈kg／年〉 2,398	3.000	2,374 kg／年以下	2,374 kg／年以下	2,374 kg／年以下
				ガソリン〈L／年〉 2,634	2.320	2,607 L／年以下	2,607 L／年以下	2,607 L／年以下
				軽油〈L／年〉 2,121	2.580	2,100 L／年以下	2,100 L／年以下	2,100 L／年以下
		計（$kg\text{-}CO_2$）		171,029 $kg\text{-}CO_2$／年以下		169,319 $kg\text{-}CO_2$／年以下	169,319 $kg\text{-}CO_2$／年以下	169,319 $kg\text{-}CO_2$／年以下
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物のリサイクル及び最終廃棄物の削減	①紙類使用料の削減 ②分別の徹底 ③廃油の適正処分	産業廃棄物排出量 11.1 m3／年	 	基準値に対し 1.0 %削減 11 m3／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 11 m3／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 11 m3／年以下
3	化学物質使用量の適正管理 〈クーラント液使用量:kg〉		①化学物質使用量の把握 ②使用量の適正管理	クーラント液使用量 37.6 kg／年	 	 - kg／年	 37.6 kg／年	 37.6 kg／年
4	水使用量の削減 〈水道使用量:㎥〉		①水使用量の削減 ②洗浄作業の合理化	水道使用量 163 ㎥／月	 	基準値に対し 1.0 %削減 161 ㎥／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 161 ㎥／年以下	基準値に対し 1.0 %削減 173 ㎥／年以下
5	グリーン購入の推進 〈エコ商品購入額／総購入額〉		①環境配慮資材の購入 ②環境配慮事務用品等の購入 ③環境配慮電気・電子製品の購入	エコ商品購入率 44%	 	エコ商品購入率 45%以上	エコ商品購入率 45%以上	エコ商品購入率 45%以上
6	環境配慮製品・サービスの提供		①クレームの削減 ②歩留まりの向上 ③生産性の向上 ④環境配慮製品の開発・改善点の提案	クレーム 50件 —	 	40件 —	40件 —	40件 —
7	環境教育の促進		①環境経営方針・目標の徹底 ②環境経営の必要性確認	—	 	—	—	—
8	環境コミュニケーション		①周辺道路、水路の草刈り	—	 	—	—	—

※2024 年 9 月 25 日作成設定した 2024 年度～2026 年度の 3 か年目標数値に基づく。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力 2017 年の調整後排出係数 0.496ｋｇ-CO2/kWh を用いた。

※化学物質使用量の削減目標は 2025 年度より設定する。

5　環境経営計画　　2024 年度：2024 年 8 月～2025 年 7 月

		取組項目	責任者	担当者	取組内容
二酸化炭素排出量の削減	1）電力使用量の削減	①電力管理の徹底 ②照明管理の徹底 ③空調管理の徹底	事務局	各ショップ長	①・②・③ ・休憩時間は工場内の消灯 ・空調温度管理(夏季28℃、冬季22℃) ・空調使用時10時、14時に使用延長の確認(付けっ放しにしない) ・使用していない部屋の空調停止 ・コンプレッサー配管エアー漏れ点検、修理 ・稼動機以外の機械は電源を切る
	2）化石燃料消費量	①エコドライブの励行(燃費向上) ②冷暖房機器管理の徹底	事務局	各ショップ長	①・② ・納期を遵守し、まとめて配送する ・行き先が同じ方向ならばまとめて納品する ・日直が灯油当番を行い、必要最小限の補充をする
廃棄物排出量の削減	1)産業廃棄物排出量	①紙類使用量の削減 ②分別の徹底	事務局	各ショップ長	①紙類使用量の削減 ・会議用資料や事務手続書類の簡素化に取り組む ・打合せや会議の資料等については、ホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組む ・印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮する ・コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレットペーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図る ・使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用するよう工夫する ・シュレッダーの使用を機密文書等に限り、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める ②分別の徹底 ・紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により分別を徹底
水使用量の削減		①水使用量の削減 ②洗浄作業の合理化	事務局	各ショップ長	①水使用量の削減 ・手洗い時、洗い物においては、日常的に節水する ・凍結時の元栓、蛇口の確認（凍結により水が出ない場合でも必ず閉めること） ②洗浄作業の合理化 ・水道水での水洗いを削減し、洗浄器を使用する ・洗浄薬品は、交換頻度を見直し使用料の削減を行う
グリーン購入の推進		①環境配慮資材の購入 ②環境配慮事務用品等の購入 ③環境配慮電気・電子製品の購入	事務局	各ショップ長	①環境配資材の購入 ・再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する ・カーボン・オフセットに取り組んでいる商品やサービスを購入または使用する ・再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入する ②環境配慮事務用品等の購入 ・環境に配慮した物品等の調達に係る方針、基準等を作成し、それらに基づき物品リストを作成し、リストに基づく購入を行う ・環境ラベル認定等製品を優先的に購入する ③環境配慮電気・電子製品の購入 ・省エネルギー基準適合製品を購入する
環境配慮技術の確立		①クレームの削減 ②歩留まりの向上 ③生産性の向上	事務局	各ショップ長	①・②・③ ・検品作業の確認、徹底 ・前処理、前加工の作業の確認、徹底 ・品質向上計画を策定し、実施する

6 環境経営目標の実績並びに取組結果の評価及び次年度の取組内容

2025/9/25

環境経営目標の実績			評価及び次年度の取組内容	
1、CO2削減			評価	次年度の内容
①電力消費量削減 目標 281,164 KWh	実績 261,721 KWh	○	休憩時等の照明管理、日常的な空調管理を徹底し、目標数値を達成することができた。 また、クリーンの時間を使い、コンプレッサーのエアー漏れ点検等も実施できた。	電力使用量は機械設備による消費電力が大きいため、工場の稼働時間により電力使用量の幅が大きい。また売上の変動もあるため、2024年度より工場稼働時間及び、月次売上基準による集計を行っている。 目標数値はそのままとする。
②化石燃料消費削減 (イ)ガソリン 目標 2,607 ℓ (ロ)軽油 目標 2,100 ℓ (ハ)ガス 目標 2,374 kg (ニ)灯油 目標 4,527 ℓ	実績 2,487 ℓ 実績 1,813 ℓ 実績 2,917 kg 実績 4,453 ℓ	(イ)○ (ロ)○ (ハ)× (ニ)○	ガソリンは目標数値達成となった。 受注減に伴い、遠方への配送の機会も減り、ガソリンの使用量は減少した。また、納品方向で極力まとめて配送する等納期の調整は行った。 真夏に繁忙期が重なってしまい、空調設備の使用時間が増えたため、燃料の使用量が増加し、ガスについては目標未達となってしまった。	電気同様、空調機についても引き続き最小限の使用とし、無駄な使用を控えるため、こまめな管理を引き続き行っていく。
CO2削減 目標 169,319 kg-CO2	実績 160,099 kg-CO2	○	目標数値を達成することができた。電力使用量減の影響が大きい。	引き続き、各項目ごと使用量の削減に努める。
2産業廃棄物排出量削減 目標 11 ㎥	実績 4.2 m3	○	ペーパーレス化に取り組み、包装材の再利用や、廃棄物の分別に努め目標達成できた。	引き続き分別の徹底、出荷梱包時のビニール袋、更なる包装紙の再利用を進める。
3水道水使用量削減 目標 161 m3	実績 153 m3	○	日常的な節水の取り組みや、元栓等水道設備の管理を行った。また、洗浄時の直接使用の流し放しも削減し、目標数値を達成することができた。	引き続き、次年度の目標数値は今年度－1%とする。引き続き節水に努める。
グリーン購入の推進	事務用品の環境配慮品購入エコ商品割合45%以上	○	事務用品の購入時にはグリーン商品の購入できた。	引き続きグリーン商品の購入を推進する。
環境配慮製品、サービスの提供	不良品の対策、再発防止,クレーム数40件以下 【実績】39件	○	全従業員で方向性が明確となり、会社全体として品質の向上ができてきており、目標数値を達成することができた。	各工程ごとに不良発生項目を明確にし、引き続き不良撲滅に努める。毎月発生項目を品質会議で共有し、再発防止に努める。
環境教育の推進	環境経営方針、環境経営目標の徹底。環境運営の必要性確認。	○	計画通り実施出来ました。	引き続き環境運営の確認を行っていく。
環境コミュニケーション	工場周辺道路、水路の草刈り、堰浚い。	○	計画通り実施出来ました。	引き続き工場周辺道路脇の草刈り、ゴミ拾いを行う。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力2017年の調整後排出係数0.496ｋｇ-CO2/kWhを用いた。

7.　環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規名	遵守事項	確認結果
産業廃棄物の処理	廃棄物の保管管理	産業廃棄物処理業者へ委託
	収集、運搬、処理業者への委託締結	
	マニフェストの管理	
	管理票の発行及び公付状況の報告	
箕輪町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	決められた通りの処理	
騒音規制法	騒音規制基準の遵守	箕輪町は指定地域では無いので当社の適応は無
箕輪町公害防止条例	特定施設の設置、変更の提出	箕輪町指定様式にて提出済み
振動規制法	振動規制基準の遵守	箕輪町は指定地域では無いので当社の適応は無
消防法 上伊那広域連合火災予防条例	危険物貯蔵所設置、変更の提出	箕輪町消防署に提出済み
家電リサイクル法	対象機器を破棄する場合、再商品化の適正な引渡し	適正業者に引き渡し、適正処理する
自動車リサイクル法	対象機器を破棄する場合、再商品化の適正な引渡し	適正業者に引き渡し、適正処理する
フロン排出抑制法	簡易点検の実施 使用済みフロン類を第一種フロン類回収業者に引き渡し、回収依頼書を３年間保存する	適正業者に引き渡し、適正処理する。3 か月に一度室外機の点検を行う

　当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認しました。
又、当社の環境管理に対する利害関係者からの訴訟又は関係当局指摘等は過去有りません。

引き続き環境関連法規の遵守に努めてまいります。

地域貢献活動

・会社の周辺は田畑が広がっているので、毎年、春・夏に側溝の堰浚いや周辺道路の草刈りを行っています。



堰浚いの様子



草刈りの様子

・毎週木曜日のクリーンの時間(自主的な改善活動)を使って、工場周辺の草むしりを行いました。





・箕輪町のふるさと納税返礼品も制作し、協賛しています。



箕輪町ご当地キャラクター　もみじちゃん



・カップ麺フタ押さえ



・スマホスタンド

もみじちゃんをモチーフにした小物を制作し、箕輪町のＰＲ活動を行っています。

その他　従業員の健康促進活動

2025 年 1 月 17 日に、(一社)認知症協会　認知症予防活動支援士の佐藤桂子様をお招きし、「今日から始める認知症予防」をテーマに講演会を開催しました。認知症への理解や、食事から始められる予防方法等を講演いただき、勉強になりました。
従業員一同健康について考える良いきっかけとなりました。



当日の様子

8　代表者による全体評価と見直しの結果

1. 環境経営方針の変更の必要性(　無　)

2. 実施体制の評価及び見直し・指示の必要性(　無　)

3.環境経営目標の変更の必要性(　有　)

工場稼働時間により、エネルギー使用量に大きな幅が出るため、月々の稼働時間、または売上高をベースに目標値を再度設定する必要があると考える。もちろん、使用機械によってエネルギー使用量は異なるため、一概に増減の影響が出てくるとは考えられないが、再度目標値の見直しを図る必要がある。

2024 年度より、月次の工場稼働時間及び、売上高を基準とした原単位使用量データテストを実施しているので、翌年度以降効果の確認を行うこととする。

また、化学物質使用量については目標項目に設定し、適正管理を行うこと。

4.環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性(　有　)

環境について改善意識、行動が定着できている。引き続き活動を継続すること。

化学物質使用量の適正管理を行うこと。

LPG 使用削減に向けて、環境活動計画に取組事項を設定すること。

【総評】

今期は Co2 排出量の目標数値を達成することができたが、売上高減少によるものが大きいところが実情であり、予想通りの結果となった。工場の稼働時間は減り、エネルギー使用量は前年より削減を続けているが、喜べるものではない。環境と経営との両立はなかなか難しいことを痛感する。その中で夏場に繁忙期を迎え、空調等の使用エネルギーも増加し、コスト面でも経費増となってしまった。

目標値については工場稼働時間及び月次売上高でデータ集計し、再度見直しするものとする。

エコアクション 21 の活動も 16 年目を迎え、日常的な照明、空調等の管理は浸透できていると感じている。より余計なエネルギー使用量を削減するため、ロスをなくす、不良を削減することを従業員一丸となって頑張ってもらいたいと願う。